

★★

勝池レポート アジア資産運用アドバイザー 勝池和夫

「インド経済—より速く、より高く、より強く」

★★

インドはこの程、2036年の夏季五輪の開催地として正式に立候補しました。開催都市はモディ首相の出身地である西部グジャラート州のアーメダバードが有力視されています。開催されれば、インドでは初めての五輪となります。

オリンピックと言えば、そのモットーである「より速く、より高く、より強く」が有名ですが、インド経済では、その卓越性を求めた励みが既に力強く始まっているようです。以下にその例として、インドを代表する商業都市であるマハラシュトラ州ムンバイでの主な交通インフラの整備状況をご紹介します。

<より速く>

- * ムンバイ湾横断道路（2024年1月開業）ムンバイから西海岸の衛星都市ナビムンバイまで、今までの車で1~2時間が20分程度に。
- * ムンバイメトロ（地下鉄）3号線（2025年3月までに全線開通する計画）国際空港からビジネス街まで、今までの車で1時間以上が10分程度に。
- * ムンバイ環状道路（2029年までに完成目標）ムンバイの街の端から端まで移動時間を1時間以内に短縮。
- * ムンバイ-ナグプール高速道路（2025年開業目標）全長701キロ、両都市間の移動が現在の18時間から8時間に。貿易、商業、観光業など活性化。
- * ムンバイ-アーメダバード高速鉄道（2030開業？）鉄道の最高速度が現在の150キロから320キロへ。両都市間が7~8時間から2時間7分に。

<より高く>

- * 高層ビルの建設（高さ150メートル超の高層ビルが100棟を超える）容積率の緩和により今までのスラム街が高層ビル街に変身中。

<より強く>

- * ナビムンバイ国際空港（2025年開港予定）利用客数は最終的に9千万人が予想されインド最大。観光業の発展が期待される。
- * バンダン港（2030年開港予定）インド最大のコンテナ港。取扱量は2040年までに世界のトップ10入りを目指す。インドの貿易の中心に。

この様にインド経済を支えるインフラは目を見張るほど整備されつつあります。まるで、戦後の日本経済を大きな発展に導いた、東名高速道路、東海道新幹線、東京国際空港や巨大なコンテナ港などのインフラが、これから10年以内にムンバイでも次々に開業するイメージです。そのインパクトが、不動産業、小売業、

観光業、そして脆弱だった製造業でも期待できそうです。懸念材料が重なり目先調整中のインドの株式市場にも、インフラ整備の進展を受けて徐々に明るい展望が開けてくるでしょう。

<より速く>



ムンバイーナグプール高速道路

<より高く>



スラムの再開発

<より強く>



ナビムンバイ国際空港（完成予想）